



環境

2016年度 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員は、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として環境保全活動に対して積極的に取り組んでいる。各社の環境保全活動、環境問題への理解促進に向けた活動について紹介する。(社名五十音順)

1. 地域における環境保全活動

岡谷鋼機

名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動

岡谷鋼機では、地域貢献の一環として月1回、始業前30分、名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動を社員有志20-30人で実施している。この活動は、歩道、植え込み、排水溝のごみを拾い、清掃活動を通じて地域の方々と触れ合う良い機会となっている。今後も清掃活動を通じ、地域の環境美化の手伝いを続けていく。



清掃活動の様子 (岡谷鋼機提供)

スマイル

「わがまち江東・私もアダプトプログラム」へ参加

スマイルでは、「わがまち江東・私もアダプトプログラム」へ参加し、JR潮見駅周辺の清掃活動を月1回8時20分より実施している。これは、2014年の本社移転を機に、環境分野における社会貢献活動として、江東区アダプトプログラムに参加するもので、一緒に活動をすることで、グループ社員間のコミュニケーションも良くなり、気持ちよく仕事を開始できるとの声が聞かれている。



アダプトプログラムの様子 (スマイル提供)



アダプトプログラム参加者 (スマイル提供)

住友商事

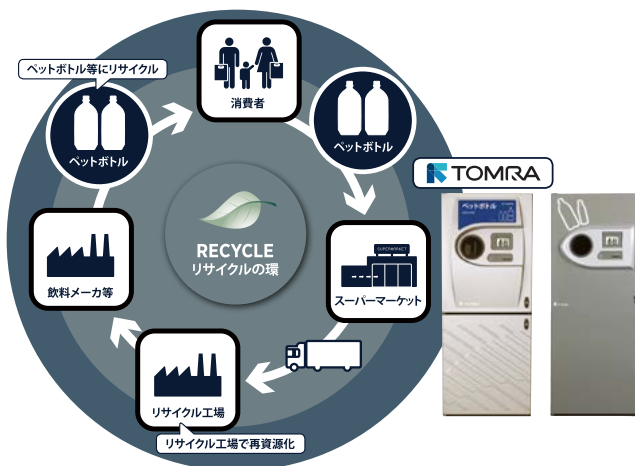
飲料容器自動回収機によるペットボトルリサイクル

住友商事グループのトムラ・ジャパン（2008年設立）は、飲料容器自動回収機（Reverse Vending Machine、以下RVM）を2016年までに全国で累計約1,100台設置した。そのうち約750台は首都圏の総合スーパー、食品スーパーの店頭を設置され、小売事業者、自治体（東京都足立区、中野区、府中市）とも連携し、地域と密着しながら設置台数を増やしてきた。RVMは、その場で対象となる飲料容器（ペットボトル、缶）を識別・分別し、約3分の1から8分の1の容量に減容することで輸送効率を向上させCO₂削減にも寄与するもので、トムラ・ジャパンは、RVMを利用して2016年は約9,300t（約3億本）を回収。これは、年間の国内ペットボトル販売量の約1.5%に当たり、日本国内でのリサイクルループ（環）を確立することで、使用済みペットボトルの海外流出量を低減、資源の国内循環に貢献している。トムラ・ジャパンはRVMで

使用済みペットボトルをはじめとするさまざまなリサイクルループをトータルでコーディネートしている（図参照）。消費者は、RVMにペットボトルを投入すると小売りチェーンのポイントカードや電子マネー、買い物に利用できるクーポンなどを取得でき、スーパーは、RVMでのリサイクルを切り口に、集客・販売促進につながるメリットがある。RVMの前に行列ができるほどの人気の店舗では、1日7,000本以上のペットボトルが回収され、大人から子どもまで幅広い世代の人々が楽しみながら環境貢献に参加している。

双日 双日グループの森林保全活動

2016年10月29日、グループ社員とその家族20人が参加し、東京都日野市の東豊田緑地保全地域において、東京都で環境保全活動を行うグループやNPOの協力を得て、下笹刈りや間伐などの作業を行った。本活動は環境および生物多様性に関する意識啓発を目的としており、今回で5回目の実施



トムラ・ジャパンの「ペットボトルリサイクルループ」

飲料容器自動回収機によるペットボトルリサイクル（住友商事提供）



RVMを利用しているところ



森林保全活動参加者



森林保全活動の様子

森林保全活動（双日提供）

となる。

参加者からは「森林の中に入り、皆が参加できるプログラムが良かった」「東京近郊で駅からも近い場所に自然豊かな環境があるのを初めて知った。大切な自然を守っていききたいと思った」などの感想があった。

豊田通商 藤前干潟（中堤）クリーン大作戦

豊田通商では、2016年10月29日（土）10:00から12:00藤前干潟のクリーン大作戦を実施した。主催は藤前干潟クリーン大作戦実行委員会で、計588人のボランティア（うち当社26人およびグループ会社45人合計

71人）が参加した。この作戦は「ラムサール条約」の登録地である藤前干潟の清掃活動、野鳥の生育保全活動の一環であり、庄内川・新川 合流地点よりやや上流での清掃活動を行った。成果としては、中堤会場は参加588人でごみ量1,064個（45L袋）、藤前会場は参加961人でごみ量460個（45L袋）とごみの量は中堤の方が多く、清掃活動のしがいがあった。

また 中堤では清掃後に干潟観察会があり親子連れに好評で、清掃結果が即時に数値で分かり、集められたごみ袋を見て充実感を感じた。



干潟クリーン活動参加者（豊田通商提供）





大阪本社周辺清掃活動（阪和興業提供）



長瀬産業 浜離宮菰外し

2017年2月25日、中央ぶらねっと（中央区社会貢献企業連絡会）主催の「浜離宮菰外し活動」へ当社グループ社員を含めて9人が参加した。参加対象は中央ぶらねっと参加企業、中央区内在住区民、勤務者であり、合計51人が参加した。この活動は、浜離宮庭園内の松を害虫から守るために冬場に掛けられた菰を、啓蟄の頃に外す作業をボランティアで手伝うもので、庭園職員の方より、菰外しの要領（はさみで縄を切って、木から外し、所定の場所に運ぶ）の説明を受け、約1時間半かけて、庭園内のほとんどの菰を外した。また外した際に、菰の中の虫を害虫、益虫の区別をして、益虫は逃がすようにした。活動の実施に当たって、当社は中央ぶらねっと参加企業として運営ボランティアとしても参加し、参加者が安全に楽しく菰外しができるよう、準備、当日の進行等を行い、無事作業を終えることができた。当日は天候にも恵まれ、菰外しの意味(害虫駆除が目的)がよく分かったとの意見が多く、後日アンケートにおいても、ほとんどの参加者がまた次回参加したいとの感想で、環境保護ボランティア活動として、満足度の高い内容であった。

阪和興業 大阪本社ビル周辺の清掃活動

大阪本社では毎年、春と秋に本社ビル回りの清掃活動を行っている。

秋の清掃活動は大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加するかたちで実施した。当日は34人の社員が参加して、朝8時より約20分間で大阪本社のある「HK淀屋橋ガーデンアベニュー」を中心に東西に2ブロック、南北に3ブロックの範囲の清掃を行った。この時期は他社も多く参加して清掃をされているので比較的きれいになっているが、それでも0.55kgのゴミが回収された。毎年のものであるが吸い殻はまだ多い。

皆が協力してきれいな大阪市を保ちマラソンランナーの方が気持ちよく走れ、また歩道で観戦される方々にもきれいな大阪市であると、良い印象を持っていただければ幸いである。

丸紅 大阪『アドプトフォレスト「丸紅の森」第5回イベント開催』

11月3日、大阪府岸和田市神於山の「丸紅の森」で、丸紅グループの役員、社員、その家族43人が、神於山保全くらぶ（現地NPO）による整備状況を見学した。自分た



急な斜面で球根を植える作業



アドプトフォレスト参加者

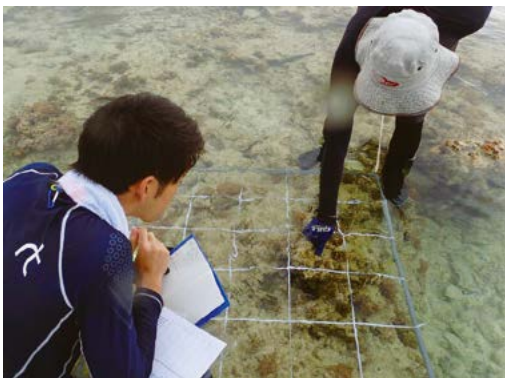
アドプトフォレスト「丸紅の森」(丸紅提供)

ちでもランの球根を移植し、整備作業（竹の間伐）などを体験した。作業を通じて、豊かな緑の再生という地域貢献活動に参加し、グループ間の交流を深めた一日となった。

丸紅大阪支社は、管理されずに放置され荒廃した森を守り広葉樹林化する「アドプトフォレスト」活動に賛同している。2011年12月、大阪府・岸和田市・神於山保全くらぶと共に「丸紅の森」宣言書に調印し、相互会、従業員組合の協力の下、2012年3月に最初のイベントを開催し、今回が5回目の活動となる。

三菱商事 サンゴ礁保全プロジェクト・沖縄

三菱商事では、海の生物多様性保護を目的に、沖縄、セーシェル、豪州の3拠点で、大学や海洋研究機関、NGOをパートナーに、産・学・民でサンゴ礁保全プロジェクトを推進している。2016年度の沖縄でのサンゴ礁保全プロジェクトでは、5月20－23日、8月19－22日の2回にわたり、琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所にて、当社およびグループ会社社員各回10人のボランティアが、同プロジェクトの現地調査に参加した。現地調査では、プロジェクトリーダー



フィールドワークの様子



現地調査参加者

サンゴ礁保全プロジェクト・沖縄（三菱商事提供）

の静岡大学鈴木敦教授と研究者の指導の下、アースウォッチ・ジャパン、静岡大学、琉球大学と協力し、サンゴ礁の観察や水質調査を行うフィールドワークと研究室でのラボワークを行った。参加者からは、サンゴ礁に対する関心が高まった、環境に対する意識が変わった等の感想があった。

メタルワン 東京本社 環境ボランティア (日比谷公園花壇 植栽)

2016年11月27日、日比谷公園「にれの木広場」横の花壇で開催された環境ボランティアにメタルワン東京本社ビルに就業する全グループ社員（出向者・業務委託専従者・派遣社員の方々を含む）とそのご家族約150人が参加した。この活動は、メタルワングループの企業理念にうたわれる「地球市民」を念頭に置いた社会・環境貢献活動の一環であり、近隣地域への貢献と、2020年「東京オリンピック・パラリンピック」へ向けて東京都が推進している「お花いっぱい事業」への継続的な協力という方針の下、2016年春より日比谷公園内の花壇で実施している植栽活動である。2016年秋に彩りを考えたデザインを基に植え付けた1万個のムスカリの球根と8,000個のチューリップの球根が、2017年春に、ムスカリは鮮やかな紫のライン状で、また、それを取り巻くように色とりどりのチューリップが、花をほころばせた。参加者それぞれが人間社会と自然環境との共生の大切さを感じることができ、身近なところで、持続可能な発展社会（Sustainability）を考える、良いきっかけ・学習の場となった。今後は、環境的視点にとどまらず、「持続可能な発展社会への寄与」といった大きな視点を根付か



ボランティア開催時（2016年11月27日）：
戸出社長（当時）開会挨拶（メタルワン提供）



ボランティア開催時（2016年11月27日）：
参加者の作業の様子（メタルワン提供）



開花の様子（2017年4月12日現在）（メタルワン提供）

せていきたいと考えている。参加者からは、「たくさんの仲間と球根をいっぱい植えて、すごく楽しかった。春が楽しみ」「都心でも、やろうと思えば、こうやって自然を維持できるのか。思いを改めなくては」といった声があった。

2. 環境問題への理解促進

伊藤忠商事

キッザニア東京での伊藤忠パビリオン

「エコショップ」の出展とアマゾンの生態系保全への寄付

伊藤忠商事は、キッザニア東京のオフィシャルスポンサーとして、次世代育成と環境保全を目的として、2012年4月より同施設内に「エコショップ」を通年で出展している。エコショップは年間3万人が来場するパビリオンで、身近な環境問題への理解を深めてもらう狙いがあり、3-15歳の子どもたちに環境素材を使用した「エコバッグ」「マイ箸」など環境に優しいオリジナル商品を製作してもらっている。また、子どもたちに環境保全活動の環^わを広げ、グローバルな視点で環境について学んでもらう場として、子どもが1人参加するごとに植林用の苗

木1本が、ケニアの植林活動に寄贈される仕組みを実施。2017年の4月からは新たにパビリオンをリニューアルし、当社が支援しているアマゾンの生態系保全プログラム「マナティー里帰りプロジェクト」と連動して、アマゾンの熱帯雨林の重要性と、そこに住む動物たちの多様性について学んでもらい、体験者数に10円を乗じた金額を、絶滅危急種であるアマゾンマナティーの支援活動（ミルク代）として伊藤忠商事とKCJ Groupから寄贈している。

環境に関する学びの要素が多いことから、保護者からも「意義のあるパビリオン」と好評である。参加した子どもたちからは、「自分たちの活動が、アマゾンマナティーを助ける活動につながってうれしい」「アマゾンの熱帯雨林はとても大事で、そこに住む動物たちも守らなければいけないことが分かった」「自分でオリジナルのお箸を作った。これからはマイ箸を持ち歩いて、割り箸をもらわないようにしたい」という感想があった。

伊藤忠丸紅鉄鋼

東京都上下水道局の現場視察

伊藤忠丸紅鉄鋼では、2016年6月を「MISI



キッザニアにおける子どもたちの職場体験（伊藤忠商事提供）



視察の様子（伊藤忠丸紅鉄鋼提供）

環境月間」と定め、期間中に地域清掃活動、環境講演会等のさまざまな環境行事を行った。

2016年度は「水」をテーマとし、われわれの生活と環境を守る水道について、その歴史も含めて学ぶ有志によるツアーを実施した。6月7日に東京都水の科学館（有明給水所）と東京都虹の下水道館（有明水再生セン

ター）を、6月8日には日本最初の近代下水道施設がある三河島水再生センターをそれぞれ訪問した。参加者からは「改めて水の大切さを理解した」「微生物の力で下水をきれいになっていることに驚いた」等の感想が寄せられ、私たちが日頃オフィスや家庭で何気なく使用している水が、どのように生まれ、その後どのように処理され再生しているのかを知る良い機会となった。

岩谷産業

イワタニ水素エネルギーフォーラム

2017年2月14日に大阪、2月27日に東京において「第11回イワタニ水素エネルギーフォーラム」を開催した。大阪・東京両会場とも「水素社会の新たなステージに向けて」をテーマに各分野から最新の報告・提言が行われた。民間企業・大学・行政等幅広い領域から大阪会場には640人、東京会場には880人が参加した。また、2016年度は新た



イワタニ水素エネルギーフォーラム（岩谷産業提供）

な取り組みとして、水素の利活用に向けてさまざまな取り組みを行っている山口県周南市にて11月11日に「イワタニ水素エネルギーフォーラム周南」を開催し、県内外から230人が参加した。3会場ともに水素エネルギー社会の実現に向けた具体的な質問や意見が多数出るなど関心の高まりを感じさせるフォーラムとなった。今後も、多くの方々との幅広い情報交換や交流を深めるべく、さらに充実した内容で本フォーラムの継続開催を目指していきたい。

兼松 eラーニングで学ぶ

「環境コンプライアンス」の実施

2016年6月「商社環境月間」に企業人として欠かせない「環境コンプライアンス」の基礎知識を改めて学ぶ機会を設けた。新入社員、ISO推進メンバー約80人を対象にeラーニングにより実施した。受講者からは環境法令だけでなく、身近なエコや環境保全についても意識が高まったなどの声が寄せられた。今後も社員の意識向上のために継続していく。

三井物産 「三井物産の森」

北海道エコ・アクション環境出前授業

三井物産は、全国74ヵ所に約4万4,000haの社有林「三井物産の森」を保有し、適切に管理することで、環境と社会に配慮した持続可能な森林経営を実践している。当社では社有林を活用し、環境意識を啓発する森林体験プログラム（林業体験や自然観察など）や出前授業を幅広い層に向けて提供している。社有林の約8割が存在する北海道では北海道新聞エコ・アクション協賛の一環で、2016年9月に「森のフィールドツアー」を開催、小学生親子38人が社有林の中で林業に必要な間伐作業を実際に体験、高性能林業機械による木の伐倒作業も見学し、自然の中で五感を使って体験的に学んだ。2017年2月には苫小牧の小学4年生35人を対象に環境出前授業を開催、座学で「森のめぐみと林業」をテーマに学んだ後、社有林から燃料用木材を供給している地元の苫小牧バイオマス発電事業所（当社出資参画事業）と隣接する木材加工工場を社会科見学し、環境に優しい再生可能な木質資源の有効利用について学んだ。



「三井物産の森」での「森のフィールドツアー」
（間伐体験）



苫小牧バイオマス発電所で、
燃料の木質チップを見学

「三井物産の森」北海道エコ・アクション環境出前授業（三井物産提供）